

▶トピック いっしょに出かける 第7課 道に迷ってちょっと遅れます					
段階	目的	進め方	使う物	ポイント	時間
授業の導入					
導入の質問	この課で学習するトピックについてのイメージ作り、背景知識を活性化する	友人と待ち合わせをするときどんな場所ですか経験を話す。また、約束の時間ちょうどに行くかどうかについてもそれぞれの意見を聞く。遅れる場合、どうするかにも話を発展させる。		学習者の母語やクラスの共通語を使ってよい。	5分

「聞く」活動1. 何時にどこですか？ Can-do20: 待ち合わせや集合の時間と場所を質問して、その答えを理解することができる。					計45分 程度
段階	目的	進め方	使う物	ポイント	時間
Can-doの確認					
Can-doの確認	学習目標の明確化	Can-do20を見て、この活動で、できるようになることを確認する。		学習のあと、どんな場面でどんなことができるようになるかを具体的にイメージさせる。	2-3分
<b>1</b> 聞く					
場面の確認	聞く立場の明確化	▶ の部分の設定を見て、聞く場面や目的を確認する。 (2)のイラストを見ながら、待ち合わせの時間と場所を説明してもらっている場面で、そこにいる人(=グレイマン)の立場になって聞くということを確認する。			2-3分
1回目の聞きとり (1)待ち合わせの時間を聞く	大切な点を段階的に聞き取る	【聞く前に】 ・時間の言い方を復習する。  【聞く】 ・初めに①を聞いて、時間だけを聞きとればよいということを確認する。 ・②～④を聞いて、学習者それぞれが答えを(1)の表にメモする。	音声 07-01 音声 07-02 音声 07-03 音声 07-04  解答の PPT	必要に応じて、理解に必要な語彙や表現を復習する。  学習者から1回だけではわからないという反応があった場合は、もう一度聞いてもよい。	10分

		<p>【聞いた後で】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを見ながら、学習者同士やクラス全体で、答えを確認する。</li> </ul>	スライド		
2回目の聞きとり (2)待ち合わせの場所を聞く	大切な点を段階的に聞き取る	<p>【聞く前に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(2)の選択肢のイラスト a~dを見ながら、語彙を確認する。</li> </ul> <p>【聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに①を聞いて、場所だけを聞きとるということを確認する。</li> <li>・②~④を聞いて、学習者それぞれが答えを(2)の表にメモする。</li> </ul> <p>【聞いた後で】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを見ながら、学習者同士やクラス全体で、答えを確認する。</li> </ul>	<p>音声 07-01 音声 07-02 音声 07-03 音声 07-04</p> <p>解答の PPT スライド</p>	学習者からもう一度聞きたいという要望があった場合は、もう一度聞いてもよい。	10分
ことばを確認して、もう一度聞く	少しくわしい内容を聞き取る	<p>【聞く前に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンクの□の中の新しいことばや表現の意味を確認する。</li> </ul> <p>【聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいことばに注意して、会話をもう一度聞く。会話①では「集合」、②では「では、案内する」、③は「待ち合わせ」、④は「イベント、始まる、スタッフ、30 分前」に注目して聞くように言う。</li> </ul> <p>【聞いた後で】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいことばが聞きとれたか、意味がわかったか確認する。</li> <li>・聞いただけではわからない点を確認したいときは、後ろの聴解スクリプトを見る。</li> <li>・学習者から質問があれば、適宜答える。</li> </ul>	<p>音声 07-01 音声 07-02 音声 07-03 音声 07-04</p> <p>(聴解スクリプト)</p>	<p>文脈の中での意味を理解することが重要。ことばが多いときは、注目することばを指示してから聞くとうわかりやすい。</p> <p>初級レベルでは少し難しいことばもあるので、すべてを覚える必要はない。スクリプトを見る作業は学習者に任せてよい。</p>	15分
Can-do チェック					
Can-do チェック	Can-do の達成を自己評価し、学習したことを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の Can-do チェックを使って、Can-do が達成できたかどうかを「★★★:よくできた」「★★:できた」「★:まだ難しかった」の3段階で、自己評価する。</li> <li>・コメント欄には、活動の感想やこれからやってみたいことなどを、自由に記入する。</li> </ul>	巻末「Can-do チェック」	Can-do チェックは、ひとつの活動が終わるごとに行っても、その課の学習が終わったときにまとめて行ってもいい。	5分

▶トピック いっしょに出かける 第7課 道に迷ってちょっと遅れます					
「話す」活動 2. 明日、何時にしますか？ Can-do21: 待ち合わせの時間と場所を相談して決めることができる。					計 100 分程度
段階	目的	進め方	使う物	ポイント	時間
Can-doの確認					
Ca-doの確認	学習目標の明確化	Can-do21 を見て、この活動で、できるようになることを確認する。		学習のあと、どんな場面でどんなことができるようになるかを具体的にイメージさせる。	2-3分
1 会話例を聞く					
場面の確認	人間関係や話題を理解する	▶ の部分の設定を見て、ベトさん、李さん、佐藤さんは同じ会社の同僚で、休みの日にいっしょに食事に行くために、待ち合わせの相談をしている場面だということを、イラストを見ながら確認する。			2-3分
(1)スクリプトを見ないで聞く	会話を聞いて、内容をだいたい理解する	【聞く】 ・相談の結果、「何時に」、「どこで」待ち合わせをするようになったかを聞き取る。  【聞いた後で】 ・クラスで答えを確認する。	音声 07-05	細かい点は聞きとばしてよい。  学習者から要望があった場合は、繰り返し聞いてもよい。	10分
(2)スクリプトを見ながら聞く	よりくわしい内容を理解する	【聞く】 ・スクリプトを見ながら聞いて、話の流れを確認する。  【聞いた後で】 ・理解を確かめるために、教師が内容について質問するとよい。 (例) 1. はじめ、佐藤さんは何時がいいと言いましたか。 2. それに対して、李さんとベトさんの反応は？ 3. 待ち合わせの場所は、誰が提案しましたか。 4. はじめはどこがいいと言いましたか。 5. それに対して、ベトさん、李さんの反応は？	音声 07-05	学習者から要望があった場合は、繰り返し聞いてもよい。  内容の理解が目的なので、文型についてはここでは解説しない。	10-15分

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいことば(スクリプトの横にある新しい表現や、下のピンクの□の中のことば)の意味を確認する。</li> <li>・日本の待ち合わせ場所(ハチ公像)など、日本事情について補足情報を話す。</li> </ul>			
<b>形に注目</b>					
(1)音声を聞いて下線にことばを書く	言語形式に注目する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声を聞いて、下線にことばをメモする。</li> <li>↓</li> <li>・クラスで答えを確認する。</li> </ul>	音声 07-06 解答の PPT スライド		5分
「！」の質問について考える	文型や表現について考え、ルールを発見する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの質問を手掛かりに、「待ち合わせの時間や場所を提案する」ときの言い方と「別の提案をする」ときの言い方の違いを考える。</li> <li>↓</li> <li>・クラスで、考えたことを共有する。</li> <li>↓</li> <li>・教師がポイントを確認する。「文法ノート」を利用してもよい。</li> </ul>	文法ノート <b>12</b>	「N はどうですか」と「N でもいいですか？」の意味・機能の違いに気づく。  「文法ノート」の使い方は、クラスによって工夫する。	10分
(2)形に注目して、会話例をもういちど聞く	学んだ文型や表現を会話例の中で確認する	スクリプトを見ながら、はじめに聞いた会話例をもういちど聞く。ここで勉強した「～はどうですか？」と「～でもいいですか？」が、実際にどのように使われているかを確認する。	音声 07-05		5分
<b>2 話す</b>					
(1)モデル会話を聞く	モデル会話の内容を理解する	<p>会話の吹き出しを見ながらモデル会話を聞く。</p> <p>3つのパターンがあるので、違いを明らかにする。パターン1(左)はすぐに待ち合わせの時間も場所も決まった例、パターン2(真ん中)は場所がわからなかった例、パターン3(右)は、時間の都合が悪い例。</p>	音声 07-07 音声 07-08 音声 07-09		10分
(2)シャドーイングする	モデル会話をスムーズに言えるようにする	パターン1、パターン2、パターン3の順番で会話を聞いてシャドーイングする。スムーズに言えるようになるまで、何回か繰り返す。	音声 07-07 音声 07-08 音声 07-09	大きな声を出さず、つばやくように言う。はじめは文字を見ながらでよい。最後は文字を見ないでできるようにする。	10分
(3)ロールプレイする	実際の場面で、自分が言いたいことが言えるようにする	<p>【ロールプレイの前の練習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パターン1、パターン2、パターン3の順番で、会話の白抜き部分(時間と場所)を入れ替えて練習する。</li> </ul> <p>【ロールプレイ】</p>	代入練習のキューを書いた PPT スライド	入れ替えることばは教師が決めてもよいし、学習者に自由に言わせてもよい。	20-30分

		<p>・友人と外出の待ち合わせの時間と場所を決めるという設定で、ペアでロールプレイをする。待ち合わせの場所は、バンコクの実際の場所にする。ロールプレイは相手を変えて、何回か行う。</p> <p>【ロールプレイの後で】</p> <p>・いくつかのペアに発表してもらい、クラスでコメントし合う。</p>		<p>モデル会話のパターンの通りに言う必要はない。ここでは、学習者が実際に友人との待ち合わせに使う場所を自由に考えて、話すことが重要。</p>	
Can-do チェック					
Can-do チェック	Can-do の達成を自己評価し、学習したことを振り返る	<p>・巻末の Can-do チェックを使って、Can-do が達成できたかどうかを「★★★★:よくできた」「★★★:できた」「★:まだ難しかった」の3段階で、自己評価する。</p> <p>・コメント欄には、活動の感想やこれからやってみたいことなどを、自由に記入する。</p>	巻末「Can-do チェック」	Can-do チェックは、ひとつの活動が終わるごとに書いても、その課の学習が終わったときにまとめて記入してもいい。	5分

▶トピック いっしょに出かける 第7課 道に迷ってちょっと遅れます					
「読む」活動3. 電車が止まりました Can-do22: 待ち合わせの相手からの遅刻を知らせるメッセージを読んで、内容を理解することができる。					計60分 程度
段階	目的	進め方	使う物	ポイント	時間
Can-doの確認					
Can-doの確認	学習目標の明確化	Can-do22を見て、この活動で、できるようになることを確認する。		学習のあと、どんな場面でどんなことができるようになるかを具体的にイメージさせる。	2-3分
1 読む					
設定の確認	読み手の立場の明確化	▶の部分の設定を見て、読む場面や目的を確認する。 友人と待ち合わせをしているが、相手がまだ来ない。そこに、その相手からメッセージが届いたということを確認する。		実際の生活において、どんな場面で、何のために、何を読んでいるのか、はっきり意識する。	2-3分
1回目の読み (1)何のメッセージか読み取る	メッセージを段階的に理解する	【読む】 ・はじめのメッセージ(★の部分)だけを読んで、何のメッセージか、メッセージを送った人の目的を読みとる。  【読んだ後で】 ・わかったことを学習者同士やクラスで確認する。 ・どんなことばに注目したかについて共有する。		全体を読んで要点を理解する。	5-10分
2回目の読み (2)遅れる理由を読み取る	メッセージを段階的に理解する	【読む前に】 ・選択肢のイラスト a-d を見て、待ち合わせに遅れる理由として考えられることを予測する。日本語でどういふかも確認する。  【読む】 ・(1)★の部分をもう一度読んで、遅れる理由を読み取る。選択肢のイラスト a-d のどれとマッチするかを考えながら読む。  【読んだ後で】 ・クラスで答えを確認する。どのことばを手掛かりにしたかを共有するとよい。		背景知識を活性化して予測しやすくする。  ややくわしい情報を読み取る。	10分

3回目の読み (3)続きの部分を読む	メッセージを段階的に理解する。理解したことから自分で考える。	【読む前に】 ・メッセージの続き(★以外の部分)を読んで、自分が相手を待っている場面なら、どうするかを考えるように指示する。  【読む】 ・各自が読んで考える。  【読んだ後で】 ・考えたことをシェアする。		友人を待っているという、読み手の立場で読む。  正しい答えがあるわけではないのでいろいろな答えがあってもよい	10分
「大切なことば」を確認してからもう一度読む	正確に理解する	【読む前に】 ・教科書の訳語を見ながら、「大切なことば」の意味をクラスで確認する。  【読む】 ・もう一度読んで、よくわからなかったところを確認する。大切なことばがメッセージのどこにあるか、文中に線などを引いて読むとよい。  【読んだ後で】 ・教師が学習者にわからなかったところや疑問に思ったところがないか質問する。		自分のこれまでの推測が正しかったのかを確かめる。語彙を照合しながら読む。	5-10分
<b>形に注目</b>					
読んで下線にことばを書く	言語形式に注目する	・下線に入ることばを、読んだメッセージの中からさがして、書き入れる。 ↓ ・クラスで答え合わせをする。			5分
「！」の質問について考える	文型や表現の形や使い方について、自分でルールを発見する	・「理由を言う」ときどんな言語形式を使っているかを考え、クラスで考えたことを共有する。 ↓ ・教師がポイントを確認する。「文法ノート」を利用するとよい。	文法ノート③	「～て」「～で」となっていることに気づけばよい。	10分
<b>Can-do チェック</b>					
Can-do チェック	Can-do の達成を自己評価し、学習したことを振り返る	・巻末の Can-do チェックを使って、Can-do が達成できたかどうかを「★★★★:よくできた」「★★★:できた」「★:まだ難しかった」の3段階で、自己評価する。 ・コメント欄には、活動の感想やこれからやってみたいことなどを、自由に記入する。	巻末「Can-do チェック」	Can-do チェックは、ひとつの活動が終わるごとに書いても、その課の学習が終わったときにまとめて記入してもいい。	5分

▶トピック いっしょに出かける 第7課 道に迷ってちょっと遅れます					
「書く」活動4. 30分遅れます Can-do20: 待ち合わせに遅れることを伝えるメッセージを書くことができる。					計45分 程度
段階	目的	進め方	使う物	ポイント	時間
Can-doの確認					
Can-doの確認	学習目標の明確化	Can-do20を見て、この活動で、できるようになることを確認する。		学習のあと、どんな場面でどんなことができるようになるかを具体的にイメージさせる。	2-3分
1 書く					
場面と目的の確認	書き手の立場の明確化	▶ の部分の設定を見て、読む場面や目的を確認する。 友人との待ち合わせに遅れてしまいそうなので、それを知らせるためにメッセージを送るという場面を確認する。			2-3分
例を読む	内容や必要な表現を理解する	・例を読む。メッセージには、①謝る、②遅れる時間 ③遅れる理由が書いてあることを確認する。 ↓ ・③で遅れる理由を述べるときは、活動3の「形に注目」で勉強した形式(～て)を使えばいいことを確認する。 ↓ ・実際のバンコクの生活では、遅れる理由としてどんなことが考えられるかをクラスで出し合う。			10分
メッセージを入力する	自分の場合を考えて、実際に書く	・ペアになって、メッセージを書いて相手に送る。	各自のスマホのメッセージアプリ	教室環境や学習者の状況に合わせて、何を使って書くかは工夫する。	10-15分
2 書いたものについてフィードバックをもらう					
返事のメッセージを書く	相手からフィードバックをもらう	・メッセージを受け取った人は、メッセージを読んで、相手の状況を理解する。 ↓ ・自分ならどうするかを考えて、相手に返事のメッセージを送る。		日本語で言いたいことをどういふかわからなときは、辞書で調べたり、教師に質問したりする。	5-10分



クラスで共有する	内容を確認したり、間違いを修正したりする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友人とのメッセージのやりとりを写真でとって、クラスの共有ツールを使ったサイトに投稿する。</li> <li>↓</li> <li>・一人一人の投稿を順番にモニターに映して、クラス全体で共有する。例を読んだときに確認した3つのポイントが書かれているか、やりとりとしておかしなところがないかを、お互いにコメントし合う。</li> <li>・語彙や表現、文法の間違えば、指摘する。</li> </ul>		共有の方法はクラス的环境に合わせる。	10分
Can-do チェック					
Can-do チェック	Can-do の達成を自己評価し、学習したことを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の Can-do チェックを使って、Can-do が達成できたかどうかを「★★★★:よくできた」「★★:できた」「★:まだ難しかった」の3段階で、自己評価する。</li> <li>・コメント欄には、活動の感想やこれからやってみたいことなどを、自由に記入する。</li> </ul>	巻末「Can-do チェック」	Can-do チェックは、ひとつの活動が終わるごとに書いても、その課の学習が終わったときにまとめて記入してもいい。	5分